



文京学院は、平成26年10月23日に創立90周年を迎えます。

〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学園
文京学院大学経営学部・外国語学部・
保健医療技術学部／大学院／文京学院
大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部
／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校／文京学院
大学女子中学校
〒113-8667 文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301

中高 学びの成果発揮

「文女祭」に4595名が来校

毎年、多くの来校者で賑わう「文女祭」が、9月27・28日に駒込キャンパスで開催されました。創意工夫溢れる展示や研究発表、パワフルな部活・同好会発表、種々の模擬店等々、どれをとっても「おもてなし」の心が感じられ、4595名の来校者は心行くまで一日を楽しみました(写真は2〜3面に掲載)。



創立90周年の「90」とハートマークを描くBMY

今年のテーマは「Get たけ〜」。各校で文化祭が into action〜未来へはば 盛んな時期ですが、本校の「文女祭」の特徴は、その豊富で丁寧な展示発表。クラスごとのテーマによるものは勿論のこと、中学からキャリア教育に取り組み本校では、中2全員参加による「口

ールモデル研究(過去・現在活躍の女性)、中3全員参加による「職業インタビュー」や、高2による「企業職業研究」など、自立した女性として生きていくために必要な学びの場があります。

さらに、本校の新しい教育システムの一環で、中1ファンデーションステージプログラムの一つとして、アドバンストサイエンスで「扇風機のプロペラを変

えて風力をみる」「電卓でできる数学マジック」など15テーマ、スポーツサイエンスでは「人間の身体はいくつの骨と筋肉からできているか」「足を速くするためにどこを鍛えればよいか」など10テーマについて、グループごとの研究成果を発表しました。

年もフェアトレードコーヒーを販売。長期海外語学研修の展示も行いました。「東日本大震災震災遺児プロジェクト」を行っている併設大学の「ブレイメンズ」も多種のチャリティグッズを販売しました。双方共に売り上げを関連団体に寄付します。

本校が誇るBMY(文京

マーチングユースは、昨年「カラーガード」「ハートン」「吹奏楽」の3つの部となりましたが、今回はBMYとして見事なドリルを披露。最後に文京学院創立90周年を記念して、校庭に大きな「90」とハートマークを描き、来校者や仲間の大声援と拍手に包まれました。

大宮から来校した親子は「お祭り騒ぎの文化祭を想像して来ましたが、どの生徒もそれぞれの持ち場に真剣に取り組んでいる姿に感銘を受けました。こんなに素晴らしい環境で、伸び伸びと生徒を育てている文京学院の教育に大変興味を持ちました」とうれしい感想を寄せてくださいました。

本学における高等教育は、1964(昭和39)年に創設された文京女子短期大学英語英文科に始まり、半世紀に亘り2万3000名以上の卒業生を送り出した短期大学は、今年3月に発展的に解消、その使命を終えました。

私は、短期大学半世紀の歴史の中で、40年間を共に歩んできました。振り返り、強心に残っておりま



副学長 経営学部教授 林 寛美

てくる学生の多様化に対応するため、徹底した少人数教育を行ってまいりました。

しかし、ふたつの波は強く、また学生の多様化は社会の変化と相まって、短期大学の教育成果に限界を感じさせるものとなりました。つまり、2年間で本学が目指し、社会が求める人材を育成することに困難を感じるようになったのです。

そこで、これまで短期大学で行ってきた英語教育とキャリア教育の精神を4年制大学に移し、4年間で今日のグローバル社会のニーズに対応することのできる人材を育成しようということになりました。

短期大学の教員はそれぞれ4年制大学へ移り、その多くがGCI(グローバルキャリア・インスティテュート)プログラムの中心的な役割を担っております。

短期大学はこれまで優秀な人材を輩出してまいりました。この精神をこのような形で4年制大学へ移し、今日の社会の要請に

中高 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)便り⑱

「水産学会」「文女祭」で発表

「日本水産学会 秋季大会」へ参加

9月21日、竹村美帆香さん(高2梅)と宮下真侑さん(同)が、福岡県の九州大学箱崎キャンパスで開催された「日本水産学会秋季大会」高校生ボスター発表部門に参加しました。

ふたりのテーマは「納豆菌が口内環境に与える影響の研究：納豆菌はエイリアン?」。あの独特の臭いを発する納豆の特性を解明しました。発表時間前より熱心な学会関係

者の方々が会場を訪れたため、ふたりは予定時間を繰り上げてボスター解説を始まりました。用意した100部の解説書もなくなる盛況ぶりでした。

発表時間は3時間の予定が4時間になりましたが、その分、多くの研究者の方々と交流することができ、質疑応答のやり取りや研究に関するアドバイスをいただき、充実した学会参加となりました。



前田教授(奥右から2人目)と中学生TA

川柳香さん(中2菊)・野村花音さん(中2桃)・神尾まいさん(同)・大橋ななこさん(中2松)。

赤外線LEDは、リモコン、ケイタイ同士の通信、防犯用カメラ

などで使われています。当日は、100円ショップでも売られている紫外線を出すマジックペンを改造して、電子黒板用の電子ペンを作製。電子ペンから出た光をWi-Fi(ワイファイ)リモコンのカメラでつかまえ、スクリーンに映し出しました。子どもにとって、Wi-Fiはゲームを通じてお馴染みのもの。ゲーム時には、テレ

ビ横のセンサーに向けてWi-Fiリモコンを動かしますが、反対に、Wi-Fiリモコンに向けて赤外線の電子ペンを動かしても同じことができないことが判明。

参加者は、電子ペンをスクリーンに近づけるだけで自由に文字や絵を描ける不思議な現象に、驚きの声を上げながら熱心に操作して楽しみました。

9月27・28日の「文女祭」で、SSH教育センターが企画した理科実験教室が開かれ、「赤外線電子ペンを作ってみよう」をテーマに、工作と実験が行われました。対象は「文女祭」に来校した親子。指導は工学院大学工学部電気システム工学科の前田幹夫教授と前田研究室に所属する学生TAの皆さん、本校生徒TAの中



次々と訪れる来場者に対応

赤外線電子ペンを作製

54年度中学卒業生の(左から)田所さん、鎌田さん、石井さん



これらことは、私の長い教員人生に潤いを与え、私の人生を豊かなものにしてくれました。いま私自身の貴重な財産になっておりま

す。共に歩んでくださった皆様方に心より御礼申し上げます。

少子化と四大志向の波は短期大学を襲いました。本学でも改革に次ぐ改革を断行し、大胆なカリキュラムの改訂を行い、また入学し

Green Spirits

社会ニーズに応じて

短期大学はこれまで優秀な人材を輩出してまいりました。この精神をこのような形で4年制大学へ移し、今日の社会の要請に

えていきたいと、いま強い決意で臨んでおります。

どうかご理解を賜り、今後とも支援賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

短期大学 半世紀の歴史を閉じる

特集
**短大4年制へ
発展的に移行**

短期大学は平成25年度に募集を停止し、26年3月末をもって洋が全卒業しました。今後はさらにグローバル化が進んでいくという認識のもと、これまで短期大学教育で培ってきた実績を発展的に活かして、高等教育機関としての使命を4年制大学に一体化いたします。それを記念し、9月21日(仁愛ホール)において、さよなら文京短期大学英文科閉校記念式典を行いました。

半世紀の歴史を持つ短期大学が、4年制大学に一体化されるにあたり、仁愛ホールには日本国から約350名の卒業生が参集しました。各時代を担った懐かしいかつての恩師10名もご出席。式典は、厳かなムードの中、外国語部・短期大学同窓会役員の手紙、いぢ子さん(式典写真左下)の司会によりスタートしました。

島田輝子理事長・学園長に続き、川邊信雄学長、林寛美副学長が挨拶。さらに、短大で13年間教鞭を執られたシエクスピア研究の第一人者である小田島雄志先生、文京学院校友会の森田喜代子会長が来賓として挨拶されました。最後に、外国語学部・短期大学同窓会の森山直実会長が謝辞を述べ、全員で小田島先生作詞による思い出深い校歌を斉唱。小野恵市統括ディレクターが白装束で指揮を執りました。同窓役員の手紙を香さん(式典写真右)が閉会の辞を述べて、式典はつづがなく終了しました。閉会後は会場をB・ダイニングに移し、同窓会役員の高梨洋子さんの司会により懇親会を開催。森山会長の閉会の辞に続き、野口昇右衛門教授が乾杯の発声。アトラクションでは、ハーブ奏者のネロン鈴木ひろゆきさんが、優雅な演奏を披露。小さなハレリーナたちも登場しました。続いて、卒業生の歌手・上野小由里さんが声量豊かに熱唱。恩師代表として、武田修一先生、山下孝子先生が教員たちに向けて、当時の様子を話題に懐かしげに挨拶されました。

さらに、同窓会初代会長の古田順子さんと、沖縄より駆けつけた卒業生の城間恵美子さんが、同窓生の思い出の文京トクを披露しました。最後に、お楽しみ抽選会で会場は大いに盛り上がり、武田先生の閉会の辞をもって閉宴となりました。会場には、名残を惜しむ姿があちこちにあり、学内ツアーに参加した卒業生からは、充実の教育環境に歓声が上がりました。かつての短期大学の睡顔を飾った



川邊信雄 学長

短期大学閉校の経緯についてお話をさせていただきます。去る6月に、横浜で世界学長会議があり、国連の潘基文(パンギムン)事務総長から「地球市民を育成してほしい」というビデオメッセージが届きました。本学の建学の精神である「自立と共生」が、グローバル社会の中で発揮される時代が来たと感じています。

短期大学が開設された1960年当時の日本は、電気製品や自動車などの大量生産・大量販売・大量消費の社会を築き上げてきました。しかし、昨今はインターネットやジェット機の開発により、人もの・金や情報が迅速かつ大量に世界中を移動するよう時代になりました。そのキーワードはネットワーク化とグローバル化ではないかと思えます。大学にとりましても、今後は世界の大学とネットワークを構築しながらグローバル化を進めていくことが課題になっていきます。

現在、本学は4学部10学科、5000人の学生を有する大学となっています。この10月23日には創立90周年を迎え、さらに100周年に向けて本学の進むべき道を決める時期に入っています。社会の環境変化に対応し、本学のさらなる発展を願って、今回、短期大学を4年制大学に統合する運びとなりました。

私が2011年に学長に就任する際、多くの方々から短期大学卒業生の活躍を耳にいたしました。今後は、同窓会の発展のために皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



小田島雄志 先生

30歳から60歳まで東京大学で教えて退官後、島田先生から短期大学への教授就任のお話をいただきました。私の専門は英語を教えることではなく、シェイクスピア研究と演劇評論なのですが、教職員の皆さんや学生たちから本当に大事にされ、とても居心地が良くて13年間勤めさせていただきました。

東京大学では最終講義はやりませんでした。こちらではやりたくて「シェイクスピアの年齢」について話した記憶があり、良い思い出です。この2年間は、井上ひさしに関する本を依頼され、「井上ひさしの劇ことば」(新日本出版社刊)を書いたばかりです。そこにはとても気になる言葉があります。「表裏源内蛙合戦」という彼の戯曲があり、最後に女性が唐突に歌い出し、物語が終わるのですが、それは「美しい明日をお前は持っているか、心のどこかに」という歌なのです。

私は旧満州で生まれ帰国し、大変な苦勞を重ねて辛い思い出ばかり持っているのですが、「文京学院での13年間は本当に美しい昨日だった」と声を大にして言えます。ですから、今さら「美しい明日を持っている」とは恥ずかしくて言えない、言う必要もないと考えていましたが、ふと「それではいけない。美しい昨日を持っていれば、美しい明日も持てる」と考えました。皆さんに、私は「この歳になっても美しい明日を持っている」ことをお伝えして終わりにいたします。



島田輝子 理事長・学園長

文京の短期大学は国際化を見据えて英語・英文学教育に力を入れました。その結果、日本全国から優秀な人材が集まりました。2年間はとても充実していたのではないのでしょうか。授業以外にもクラブ活動が盛んで、例えばマンドリンクラブは都内有名三短大の各校として、素晴らしい演奏技術を誇りました。

文京学院においては、この短期大学こそ、高等教育への第一歩と言えると思います。日本の女性にとって、短期大学が高等教育を身近なものにしたとも言えるでしょう。さらに勉強したい人には、編入や留学という道が拓かれていたが、多くの卒業生は企業へと就職し、その活躍が文京学院の名前を社会に知らしめてくれました。

今日、「地球市民」であることが求められています。相手を尊重し、どの国でも生きていける人材、どの国からの人々も温かく迎えられることができる人材を育てていきたいと思います。

林寛美副学長の挨拶は一面を飾ります。



写真提供：イラストナミ



森山直実 同窓会会長

私たちが学んだ懐かしい校舎は、この2月に大空にそびえたつ素晴らしいS館に生まれ変わりました。旧校舎1階一面に飾られたレリーフは、短期大学の象徴というべきものでした。私たちの思いを汲み、この新校舎の壁にそれを残してくださいましたので、皆様にはぜひご覧いただきたいと思えます。私たちの青春を燃焼し、喜びを満喫した短期大学も本日閉校となりますが、これからは外国語学部としてさらにはばたいていきます。

このS館11階には同窓会室がありますので、皆様どうぞお運びください。学び直しをご希望される方には、生涯学習センターもあります。このように、文京学院は永久に皆様の変わらぬ母校です。

10月23日に仁愛ホールで行われる「創立90周年記念式典」でまた皆様とお会いできることを楽しみにしております。



森田喜代子 校友会会長

昭和39年の東京オリンピック開催の年に短期大学が生まれ、奇しくも再び東京オリンピック開催が決まった年に閉校の運びとなりました。昭和40年代～60年代、短期大学は絶頂期を迎えました。推薦入学の提出日には、明け方から希望者が正門前に並び、受験組と合わせて700名もの入学者を受け入れた年もあります。理論と実務の両面から実社会で活躍できる人材を育成する創立者・島田依史子先生の教育理念と、先生方の教えが、まさに世の中の期待に応えたのです。企業の採用担当者が短期大学に押し寄せ、ひとりでも多くの卒業生を獲得しようと来校されました。その時代に驕ることなく、卒業生の皆さんが地道に積み上げて残した実績が、今日の文京学院大学の就職率の高さに繋がっています。

短期大学で学んだことは、私たちの誇りであり、かけがえのない財産です。それが大きく育って外国語学部の基礎となり、今後もさらに大きな発展に繋がっていくのです。私たち卒業生はこれからも文京学院大学を支え、私たちがいただいたご恩を、今度は後輩たちに返していきたいと思えます。

式典



懇親会



中高

「文女祭」

※記事は一面を参照ください。

大学 保健医療技術学部理学療法学科

「日野原重明カップ」に貢献

9月13・14日、大田スタジアムと大井ふ頭中央海浜公園スポーツの森野球場で、「日野原重明カップ」スローピッチソフトボール大会が開催され、本学保健医療技術学部理学療法学科の学生たちが、コンディショニング他、本部サポートなどで活躍しました。



挨拶をする103歳の日野原先生

約50名が参加。学生が実際にモデルになり、ふくらはぎやアキレス腱など8項目にわたる怪我防止のためのストレッチについて、わかり易く解説。福井学部長の手により、学生の身体の柔軟度が目に見えて変化する度に、参加者から称賛・感嘆の声が上がりました。その後、一般社団法人全日本健康スローピッチソフトボール連盟の須山勇理事長の開会宣言に続き、日野原会長、松原忠義大田区長ほかの挨拶があり、試合スタート。チームは、68歳以上の「オパール(OP)」の称号を与えられていますが、今回新たに75歳以上の「スーパーシニア」の称号が加わりました。それら25チームが、初日に予選リーグ戦、2日目に決勝トーナメント戦に臨み、結果は「第10回日野原カップ大会」

これは、今年103歳を迎える日野原重明・聖路加国際病院名誉院長を大会会長とした60歳以上対象のソフトボール大会で、今年第10回記念の開催。今年の参加は25チームで、一番若いチームでも、平均年齢は64・63歳で、最高は平均年齢81・45歳、さらに最高年齢の選手は88歳という驚くべき年齢構成の大会です。開会に先駆けて、同スタジアム会議室で、本学保健医療技術学部の福井勉学部長・教授が、選手を対象とした10回記念コンディショニング講演会を開き、

学生からは「シニア選手の姿を見て胸が熱くなった。なんとか力になりたい」と思った。「実際に選手の体をコンディショニングする喜びを感じた」「慣れた様子で選手に携わる先輩の姿を見て感激した」「チームでサービスを提供することの大切さ、方法を学んだ」「理学療法士の役割が病院や施設に留まらず、地域のイベントなどにも貢献できることを体験できた」などの感想が寄せられました。渡部助手は「選手の年齢層を聞き、最初は心配したが、その動きや白熱具合に驚いた。学生も選手に真摯に対応し、その姿を頼もしく思った」と同大会への初参加を喜びました。福井学部長は「今回のサポートを行った選手から、1ポイントは、私が予想していた以上に学生の応募が多く、正直驚いた。暑い中、点数付けや物品の運搬など大会

と大会を振り返りました。同大会事務局で広報を担当する吉田一博さんは、「福井先生の実践的な講義を聞き、さらに孫くらいの学生たちと触れ合えて、選手たちは喜びを感じていた。10回記念に相応しい良い大会だった」と大会の成功を喜びました。



心を込めてコンディショニング実施



福井学部長(右)による「怪我防止のストレッチ」



付けた物品の運搬など大会と大会を振り返りました。同大会事務局で広報を担当する吉田一博さんは、「福井先生の実践的な講義を聞き、さらに孫くらいの学生たちと触れ合えて、選手たちは喜びを感じていた。10回記念に相応しい良い大会だった」と大会の成功を喜びました。

大学 文の京カレッジコンサート

吹奏楽部がパワフルに演奏

吹奏楽部が9月7日、文京シビックホール小ホールで開催された「文の京カレッジコンサート2014」に出演しました。



島田学園長(中列中央)、小野統括ディレクター(学園長左)、山田指揮者(学園長右)を囲む吹奏楽部メンバー(前列右から二人目が武馬部長)

今年、選考を通過して舞台上に乗ったのは、本学はじめ中央大学理工学アンサンブル同好会、東京大学法学部緑会合唱団、尚美ミュージックカレッジ専門学校 Kaima Saxophone Quartet、お茶の水女子大学キター部、拓殖大学吹奏楽部、東洋大学 SONIC GARDEN、貞静学園短期大学合唱サークル「Lat」、東洋大学II部器楽研究会、東邦音楽大学・短期大学サクソフォンアンサンブル、

大学 埼玉県と共同開催

「発達障害児療育実践者育成研修会」盛況

本学心理臨床・福祉センター「ほっと」(永久ひさ子センター長・人間学部教授)が9月27日、ふじみ野キャンパスにおいて「発達障害児療育実践者育成研修会」を開きました。これは、埼玉県発達障害児に関わる職員を対象とした同県と「ほっと」の共同研修会で、当日は各市町村の行政職員、保健師、障害児通所施設・保健所・児童相談所の職員など約40名が参加しました。講師は、本学人間学部の伊藤英夫学部長・教授。臨床発達心理士スーパーバイザーとして、施設運営に携わっている経験を含めて

「発達障害児の評価と支援」 「発達障害児の早期発見・早期診断」 「地域社会と発達障害」 「地域と発達障害児・者とその家族にどう対応したら良いか？」 の3テーマについて、熱く語りました。例えば、「どこからどこまでが個性か、または障害か？」については、「日常生活に何らかの支障があり、特別な配慮や支援が必要かどうかが目安」と明解。「保護者の信頼を得るにはどうするべきか？」については、「小手先の対応ではなく、自分の仕事がちかんとできているかどうかを保護者から見られている。自分のク



熱心な受講者を前に講義を行う伊藤学部長